

心に山ありて幸いなり 山岳写真家・白旗史朗展



«ベルト針峰とドリユ針峰（レ・ブラから）»

展覧会名	心に山ありて幸いなり 山岳写真家・白旗史朗展
会期	2023年4月29日(土)～6月25日(日)
休館日	無休
時間	午前9時～午後5時(最終入館は午後4時30分まで)
料金	一般900円(800円)、高校生450円(400円)、 中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金
主催	公益財団法人 さかた文化財団 酒田市美術館
共催	酒田市、酒田市教育委員会
企画協力	一般社団法人 白旗史朗保存会
本資料に関する 問い合わせ	酒田市美術館 〒998-0055山形県酒田市飯森山3丁目17-95 学芸主任:武内治子 TEL0234-31-0095 FAX0234-31-0094

展覧会概要

白旗史朗(1933-2019)は、父が酒田市(旧・八幡町)出身であったことから、鳥海山を「父の山」と呼び、幾度となく足しげく通い多くの写真を撮った本市にゆかりのある山岳写真家です。

父の紹介により1951年に富士山の写真家・岡田紅陽に師事し、カメラ操作から始まり表現方法や写真の現像などのあらゆる技術を習得します。その後、収入の糧としてバレエの舞台写真や経済雑誌のカメラマンの仕事をしてきた白旗は、1962年に「山だけを撮る写真家」として独立宣言をし、以後、ヨーロッパ・アルプス、ヒマラヤなどの世界の名峰や、日本アルプス、富士山などの日本の名峰の撮影に挑んでいきました。

白旗は、四季折々に魅せる表情豊かな山の姿の中でもとりわけ、山にかかる「霧」や「雲」を生かした構図で、自分だけの独自の表現方法を追求し、優麗な山の姿を撮影しました。

本展は、没後初となる回顧展として、初期作品から晩年まで、ヨーロッパ・アルプスやヒマラヤなどの世界の名峰、日本アルプスや富士山そして鳥海山などの日本の名峰を中心に約80点を紹介します。

作家プロフィール



白旗史朗(1933-2019)

1933(昭和8)年山梨県大月市(旧・廣里村)に生まれる。岡田紅陽に師事した後、1962年に山岳写真家として独立宣言。1966~84年に渡りアフガニスタン中部ヒンズー・クシュ、インド北部・パンジャブ・ヒマラヤ、ヨーロッパ・アルプス全域、ネパール・ヒマラヤ全域を数度にわたって踏査撮影取材をする。また、アンデス、カナダ、パミール取材するなど、精力的に活動する。また、日本アルプス、富士山など日本各地の名峰へ遠征し、撮影に挑んだ。

生涯にわたって、ヒマラヤを始めとする世界の名峰、また南アルプスや富士山などの日本の名峰の山岳写真を主体に撮影した。四季折々の山の姿を撮影した作品は、数多くの山岳専門誌や写真専門誌で発表され、高い人気を誇った。また、2000年には、キング・アルバート1世記念財団(スイス)より世界初・唯一の功労勲章を授与され、国内外で高い評価を得ている。

主な受賞歴に、日本写真協会賞(1977年)、野口賞(芸術・文化)など。

山岳写真の会「白い峰」会長、(特別非営利活動法人)日本高山植物保護協会会長、(財)日本国立公園協会理事、富士学会理事などを歴任した。

展覧会のみどころ

日本を代表する山岳写真家・白籐史朗の没後初となる回顧展。

山岳写真家・白籐史朗氏は、父が酒田市（八幡町）出身だったことが由縁で鳥海山を「父の山」と呼び、足しげく鳥海山に通い撮影に挑みました。白籐氏は、亡くなる1週間前に本市に対し、文化・芸術の振興の為に、鳥海山を撮影した写真データ100点の活用を承諾しました。酒田市では、写真データをパネル化する作業を進め、これまで当館の市民ギャラリーで展示し、広く市民に対して白籐氏の作品を紹介しながら、地域の魅力を発信してきました。

本展では、鳥海山はもちろんのこと、初期から晩年までの世界の名峰、日本の名峰を未公開写真も含めて一堂に介し、白籐芸術の全貌に迫ります。

主な作品



《マーゴ・フォンテイン》1959年



《東南稜5100mから見たマカルー》



《絢爛の山稜（北岳から間ノ岳）》

■ 山岳写真家になるまでの仕事を初展示

白籐は、1951年に富士山の写真家・岡田紅陽に師事し、その後、収入の糧としてバレエの舞台写真や経済雑誌のカメラマンの仕事を請け負いました。

1962年に山岳写真家として独立宣言をする前夜、山岳以外で請け負った仕事のフィルムを裁断した為、これらの作品は消失しています。

本展では、奇跡的に残されていたバレエダンサー・マーゴ・フォンテインらの肖像写真等を特別に展示します。

■ マカルー遠征

1970年5月、白籐は日本山岳会東海部支部「マカルー遠征隊」の一員としてマカルーに挑みました。白籐は7600mに設営された第5キャンプ（7600m）まで入り、初めて8000mラインを経験しました。この遠征は白籐にとって大きな契機となりました。マカルーの山の写真や白籐の取材ノート等貴重な資料を展示し、マカルーに挑んだ当時の様子を紹介します。

■ 心の山「南アルプス」

1952年に岡田紅陽の助手として白籐は、南アルプスに登りました。特に富士山に次ぐ日本第二の高峰として君臨する北岳を目にした瞬間「一生を山に生きる」と決意した白籐は、その後も自身の心の山として南アルプスの撮影に挑み続けることとなります。

本展では、北岳を始めとする間ノ岳、鳳凰三山、赤石岳などの南アルプスの表情豊かな山脈の写真を展示します。

主な作品



「富士端麗 ミツ峠山」



「鳥海山 御浜」

「マッターホルン倒影
(リッフェルゼーから)」オリジナルグッズ
限定販売

■ふるさとの山「富士山」

山梨県大月に生まれた白簾は四季折々の富士山の姿を眺めながら幼少期を過ごしています。そして、師の岡田とともに最初に登った山も富士山でした。白簾は、富士山の本質や美しさを表現するために、他の山々のように山中深く入り込むことはせず、その周辺から眺め、撮影する手法を取りました。他の山との撮り方の違いにもぜひご注目ください。

■父の山「鳥海山」と白簾の「百一名山」を紹介

白簾の父が酒田市（旧・八幡町）出身だったことから、白簾は自身の本籍を酒田市に置いていました。そのため、鳥海山を「父の山」と呼び、富士山と南アルプスに対して抱く思慕や情景といった同じ思いを持って撮影をしていました。鳥海山でもとりわけ御浜の鳥海湖をはじめとする四季折々の姿や日本海の夕日がもたらした赤熱の鳥海山を紹介します。

また、白簾は現在日本で定着している文筆家・深田久弥が定めた「日本百名山」とは別に、自身なりの百名山を選び、そこに富士山を加えた「百一名山」を発表しました。本展では、「百一名山」の中から代表作を展示します。

■世界の山々

白簾は日本の山々だけでなく、世界の山々の写真も多く撮影しました。とりわけヨーロッパ・アルプスは、フランス、イタリア、スイス、ドイツ、オーストリアにまたがる大山脈です。マッターホルンやアイガーなどのヨーロッパ・アルプスに加え、ヒマラヤやカラコラムなどの名峰を紹介します。

■Tシャツ、水筒など限定グッズを販売

本展を記念して、白簾史朗の写真をプリントしたTシャツや水筒、ポストカード、マスコット人形などを販売します。また、本展で紹介しきれなかった作品も多数掲載された「図録」も販売します。

この機会に是非ミュージアムショップにもお立ち寄りください。

報道・広告用画像

画像1～6を報道・広告用にご提供いたします。ご希望の方は下記の使用条件をお読みの上、酒田市美術館までお問合せください。なお、広告用画像は本展覧会に関する情報掲載以外の目的に使用することは出来ません。(個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご提供できません。)

[使用条件]

- ①報道・広告用画像掲載には、必ず作家名、作品名を掲載ください。
 - ②トリミングはご遠慮ください。
 - ③情報確認のため、お手数ですが校正データを酒田市美術館までお送りください。
- 以上、ご理解・ご協力のほど、何卒宜しくお願い致します。

1



《ベルト針峰とドリユ針峰（レ・プラから）》◎白旗史朗

2



《マッターホルン倒影（リッフェルゼーから）》◎白旗史朗

3



《エベレストとローツェの赤熱（ゴーキョ・ピークから）》◎白旗史朗

4



《富士端麗 三ツ峠山》◎白旗史朗

5



《絢爛の山稜 北岳から》◎白旗史朗

6



《鳥海山 御浜》◎白旗史朗